

平成23年度徳島大学総合科学部学部長裁量経費
総合科学部創生研究プロジェクト成果報告
「モラエスの庭—徳島の自然・人・心—」

宮崎隆義, 佐藤征弥, 境泉洋

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
E-mail: miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp

A Report of the Project Studies 2011:
Moraes's Garden—Nature, People and Heart of Tokushima—

Takayoshi Miyazaki, Masaya Satoh, Motohiro Sakai

Institute of Socio-Arts and Sciences, The University of Tokushima
1-1 Minami Josanjima-cho, Tokushima, 770-8502, Japan
E-mail: miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp

Abstract

This report is a record of the activities in 2011 - 2012 of Moraes's Studies Group launched in July 31, 2010. The members of Moraes's Studies Group, T. Miyazaki (English Literature), M. Satoh (Plant Physiology), M. Sakai (Clinical Psychology), all at the Institute of Socio-Arts and Sciences, The University of Tokushima, have been continuing to try to analyze Moraes's works and to approach a new facet of Moraes's biographical aspects.

As the basic activities we organized and have been organizing regular meetings in a month or two months, reading Moraes's *Tokushima no Bon-odori* and *Oyoné to Koharu*. We also arranged a public lecture for students and citizens here at the Faculty of Integrated Arts and Sciences, and a research tour in Kobe in March in 2012.

Our activities are still going and developing with the cooperation with other local groups in Tokushima and Kobe.

Key Words: Wenceslau de Moraes, *Tokushima no Bon-odori*, *Oyoné to Koharu*, Moraes's Studies

1.はじめに

本研究は、徳島大学総合科学部学部長裁量経費・平成23(2011)年度総合科学部創生研究プロジェクトによる研究成果の一部である。

研究プロジェクト名は「モラエスの庭—徳島の自然・人・心—」であり、研究参加者は、大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部の佐藤征弥(植物生理学)、境泉洋(臨床心理学)、宮崎隆義(英文学、代表者)の3人で、いずれも平成21~23(2009~2011)年度の、徳島大学大学院総合科学教育部博士課程前期での共通科目「プロジェクト研究I」の担当者であった。

本研究論文の目的は、プロジェクトの遂行にあたっての基本的な活動の記録と同時に、活動の一環として開いている例会・読書会での成果をもとにして、モラエスの著作について新たな考察を加えることである。平成22(2010)年度については、モラエス研究会設立とその後の活動の記録を記し、さらに、例会・読書会で扱った『徳島の盆踊り』に関して、「モラエスの庭—(1)日記文学・随筆文学ということ—」(『地域科学研究』第1巻,2011年)を公刊した。その中では、モラエスが日本の日記文学、随筆文学に傾倒しながら、随想として『徳島の盆踊り』をポルトガルの『ポルト商報』に連載発表した経緯と、彼が随想にこだわった点について論考の形でまとめている。

また、このプロジェクトと関連し、大学院の共通科目「プロジェクト研究I」での成果の一部として、同じく『地域科学研究』第1巻に、「『阿波名所図絵』における眉山の自然と景観」(佐藤征弥ほか, pp.15-27)を掲載した。

2. モラエス研究会—平成23年度の活動記録—

本研究プロジェクトは、平成22年度に引き続いて採択を認められたものであるが、平成22年度の計画を踏まえつつ、基本的な活動として、研究例会・読書会を毎月1回程度の目標で行うこととして、以下のように実施した。

研究例会・読書会の実施状況(平成23年度分)

- ・平成23年5月28日【モラエス研究会例会・読書会】
- ・平成23年6月25日【モラエス研究会例会・読書会】

- ・平成23年7月30日【モラエス研究会例会・読書会】
- ・平成23年8月27日【モラエス研究会例会・読書会】
- ・平成23年10月1日【モラエス研究会例会・読書会】
- ・平成23年11月12日【モラエス研究会例会・読書会】
- ・平成23年12月17日【モラエス研究会例会・読書会】
- ・平成24年1月21日【モラエス研究会例会・読書会】
- ・平成24年3月3日【モラエス研究会例会・読書会】

毎回の読書会では、平成23年3月まで題材として使用していたモラエスの『徳島の盆踊り』をいったん終わりとし、その後の5月より『おヨネとコハル』(岡村多希子訳,彩流社,1989年)を題材として取り上げた。例会・読書会では、これまでのように教員が作品中で気づいたことを提示して、参加者で議論しながら、地元の参加者たちの記憶にある昔の状況などを教示していただいた。

6月25日の例会では、徳島朗読サロン「さざなみ」グループを主催している住友美代子氏に、モラエスの作品『おヨネとコハル』中の一節と、『徳島の盆踊り』中の一節を朗読していただいた。

当初の計画としては、平成23年度中に、新田次郎氏の遺作を引き継いで親子二代にわたりモラエスの伝記を執筆している藤原正彦氏を招いて、学生や教職員、一般市民対象の講演会を実施することをひとつの大きなイベントとして立案していた。しかしながら、藤原氏のスケジュールが非常に過密であることと、予定されている著書の執筆が遅れていたために、講演会の計画は全うすることができなかった¹。この講演会については、地域交流支援室の学内限定プロジェクト経費及び地域連携推進室の学長裁量経費にも応募することによって実施の体制を整えていた。しかしながら講演会が実施できなくなったために、その代替措置として、例会・読書会に参加している地域市民の方々からかねてより要望のあった神戸三宮周辺での調査資料見学ツアーを計画して、次のように実施することができた。

¹ その後、徳島日本ポルトガル協会のご尽力で、平成24(2012)年12月7日に藤原正彦氏をお招きし「孤愁(サウダーデ)のモラエス」として講演会を実施する運びとなった。

神戸三宮周辺での調査資料見学ツアー

(平成24年3月17日(土))

行程:

- 09:00 徳島大学総合科学部に集合
- 09:15 出発
- 11:15 神戸三宮着 東遊園地・モラエス像見学
- 12:00 昼食(神戸の外国人居留地研究会との会食交流会)
- 13:30 神戸市立博物館・モラエス関連所蔵品調査見学, 旧居留地見学
- 14:45 神戸文学館・モラエス関連貴重資料調査見学
- 15:30 布引の滝見学
- 17:00 夕食交流会
- 19:30 徳島大学へ向けて出発
- 21:30 徳島大学着, 解散

ることがわかりモラエス研究の情報交換はもちろんのこと、徳島とヨーロッパの人的・文化交流の好事例となるよう、良い関係を築きたいと願っている。なお、モライス教授夫人と令嬢が来日して、中村美代子氏の案内で、神戸周辺を訪ねており、今後とも交流を深めてゆきたいと考えている。

われわれが開いている研究例会・読書会に、神戸外国人居留地研究会の理事長である神木哲男神戸大学名誉教授・奈良県立大学名誉教授が参加されたことにより、今後、連絡連携を以ての研究体制が整いつつある。上に紹介した神戸三宮調査資料見学ツアーでは、神戸外国人居留地研究会とも交流会を持つことができたが、2013年はモラエスが神戸から徳島に移り住んで100周年にあたることを受けて、今後、共同で記念行事を開催することを検討している。

また、2011年12月の「総合科学フェスティバル」月間では、モラエス啓蒙と研究例会・読書会への参加者拡大を趣旨として、徳島日本ポルトガル協会会長桑原信義氏に「モラエスの生涯と徳島」と題して講演会を行ってもらった。

徳島日本ポルトガル協会との関連でもあるが、徳島ロータリークラブの月報に、われわれ教員3人がモラエスに関してそれぞれ一文を寄稿した²。

さらにまた、総合科学部のホームページにリンクしているブログがきっかけで、慶應義塾大学の研究員である中村美代子氏の恩師ベルギー自由大学のジョゼ・モライス(José Morais)教授がモラエスの遠縁の子孫であ

² 国際ロータリー第2670地区ガバナー月信‘Governor’s Monthly Letter’に、表紙特集としてモラエスが扱われ、宮崎(2011年8月号「モラエスの残したモノ—その作品群についての紹介—」)、佐藤(2011年12月号「海軍軍人から外交官への転進」)、境(2012年2月号「徳島への移住…トクシマニ ヤイテクダサレ…」)がそれぞれ寄稿。